

独立行政法人国立病院機構
沖縄病院 広報誌

発行日

平成22年 5月1日

第22号

発行所

沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14

編集発行 広報委員会



基本理念

患者さまの立場を尊重し高度で良質の医療を提供します。



当山の石畳 琉球王国時代に王府は、首里城と各間切の番所(地方の役所)を結ぶ宿道、橋、石畳道を整備した。当時、この道を通して、国王は普天間宮に参詣し、又各間切の年貢が首里城へ運ばれていた。

当院から約 4.5km(車で約 10分)



運営方針

- ①政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
- ②患者さまの視点に立った、暖かく思いやりのある接遇
- ③健全な経営基盤の確立
- ④安心して療養に専念できる快適な環境
- ⑤臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

目次

沖縄の青い海と緩和医療	2
沖縄病院健康フェスタ	3
新戦力紹介	4
外来診療科担当医表	8
医局業務分担表	9
医事統計・編集後記	10



表紙の花: ひるがお: ヒルガオ科の蔓性(つるせい)の多年草。山の道端や荒地に生える。地下茎で増え、長い蔓で他に巻きつく。葉は長楕円形で基部が耳形にとがり、長い柄をもつ。

沖縄では1年中花を見ることが出来る。

(当院森川宿舎にて撮影)

ロゴマークの意味



南国沖縄のイメージを表現する為に、原色(はっきりとした色)を基調とし、ベースは沖縄 okinawa の“O(オー)”を表しています。肉太い赤で太陽を表現。中は波をブルーで表し、全体として健康を象徴する人間の笑顔をかたち取っています。



沖縄の青い海と緩和医療

院長 石川 清司

詩人、山之口獺は1903年(明治36年)に沖縄に生まれ、19歳で上京、59歳で亡くなるまで詩を書き続けた。愁いに満ちた数々の詩の中には、現代社会をも見透すかのようなまなざしが秘められている。「喪のある景色」の一節である。

「うしろを振りむくと

親である

親のうしろがその親である(略)

まえを見ると

まえは子である

子のまえはその子である(略)

こんな景色の中に

神のバトンが落ちている

血に染まった地球が落ちている」

国立病院機構沖縄病院に緩和ケア病棟が開設されて3年が経過した。様々な人間模様が描かれていった。まさしく、この空間は小さな戦場である。「生と死のはざま」でもがく人の世の、あまりにも具体的な、なま身の人間の格闘の場面の連続である。

病棟の最初のお客さんは県外、四国からの患者さん、森本さんでした。「母親は胃がんの末期の状態です。沖縄の青い海が見たいという母親の最期の願いをかなえてあげたい」との息子さんからの便りが届いた。

果敢にも、病棟のスタッフは受け入れの態勢を整えた。50歳代の主婦。進行した胃がんのため腹水でお腹が張っている。常時、吐き気があるため鼻から胃へ管が通されている。沖縄の海を望むには、あまりにも病状は進行し、苦痛を伴っていた。

その年の沖縄の5月は、ことのほか雨が多かった。森本さんの願いはかなえられないのではないかとみんなが不安に駆られた。奇跡的でした。土曜日の昼下がり、どんよりとした雲の合間に南国の太陽が顔をのぞかせたのです。

主治医と病棟のスタッフが、この瞬時を逃さず、宜野湾の海浜公園へと出かけた。沖縄の青い海を背景に、おしゃれに着飾った患者さんとその家族、そして主治医と看護師が加わり一枚の記念の写真が残っている。夢がかない、患者さんはその2日後に天に帰った。

数ヶ月後、病棟に思いがけない来客。森本さんの子供たちの面々である。子供たちの反省である。「沖縄の青い海が見たい」との表現は、実はお母さんの最期の思いやりだったのではないかとのこと。海が見たかったのは、お母さんではなく、子供たちに沖縄の海を見せてあげたかったのではないかと・・・とお母さんからの子供たちへの最期の贈り物だったのです。

お母さんの最期の願いを実現するために、子供たちを含めて周囲のみんなが力を合わせて行動した。そうなのです。沖縄の青い海に託されたお母さんの深い思いは、「みんなで力を合わせて、仲良く生きなさい」というすばらしい絆(きずな)でした。

永遠の真実。「神のバトン」は、お母さんの手で子供たちに確実に手渡されたのです。

沖縄の青い海。血に染まった地球。神のバトン。

2010年5月、「母の日」に。





副院長 久場 睦夫

沖縄病院健康フェスタ

去る3月27日土曜日、サンエー西原シティに於いて「沖縄病院健康フェスタ」を開催しました。午後1時から4時まで1階フロアにて、外来師長・連携室・医局をはじめ内科・外科・結核・神経内科病棟師長の面々に、栄養室、検査科、医事課、放射線と色々な部署が参集し、買い物の市民の皆様へ活発に啓発活動

を行いました。実施内容は、身長・体重・血圧測定にはじまり、骨密度測定、肺年齢測定、高脂血症等代謝疾患についての栄養相談その他の健康相談で、来場者は73名でした。検査を受けられた方々の大半は女性で、日常健康面に気をつけておられる方が多く、早めの外来受診勧奨対象者は少数でした。それでもご主人が喫煙されている方も多く、間接的ではあるが、ご主人への健康注意等啓発面も少なくありませんでした。今回のフェスタでは、肺機能機器を使い肺年齢の測定を行った事が相談を受けられる方に目新しく写ったようです。肺年齢は一般の皆様には解りやすい肺機能検査結果として、最近日本呼吸器学会が提唱



サンエー西原シティイベントホール
(沖縄県中頭郡西原町)にて

した項目で、肺機能検査の施行法は従来通りです。これは、主として喫煙者を対象に自覚症状の有無にかかわらず肺機能低下すなわち早期のCOPD（慢性閉塞性肺疾患）のある事を認識していただき、禁煙と肺機能低下に応じた対処を指導するために考案された検査項目です。今回のフェスタでは非喫煙者の女性が多く、肺機能低下者は殆どいませんでしたが、特に喫煙者の家族の方へこのような健診を受けられるよう啓発しました。このフェスタに来られた相談者の方々に沖縄病院の認知度をお聞きすると、結核あるいは肺癌、筋ジストロフィーの病院とのイメージを持たれている方が多く、まだまだアピールが足りない事を実感しました。呼吸器全般をみている事、消化器内科・外科、整形外科を広く知って貰うよう、さらなる広報が必要です。今回の健康フェスタは前回よりも相談者が多く、よりアピールができたものと思われました。今後も、地域住民の方々に当院をよく御利用いただくよう、より工夫をこらし定期的に続けていきたい。

外来診療科担当医表

診療受付時間

初診：8時30分～15時まで（内科・外科）
再診：8時30分～14時まで

平成22年5月1日現在

		月	火	水	木	金
呼吸器紹介外来 (午前・午後)		仲本 敦	宮城 茂	喘息外来【交代制】 1週目 仲本 2週目 久場 3週目 原 4週目 宮城 5週目 那覇	原真紀子	久場睦夫
呼吸器・一般内科 (紹介なし) (午前・午後)		久場睦夫 原真紀子	仲本 敦	アスベスト外来【毎週】 久場	那覇 唯	宮城 茂 仲本 敦
緩和医療外来			大湾 勤子		大湾 勤子	
消化器内科			樋口 大介 (午前中)	樋口 大介	樋口 大介	
神経科	新患	諏訪園 秀吾 (午前中)	野妻 智嗣 (午前中)	交代制 (8:30～11:00)	末原 雅人 (午前中)	遠藤 一博 (午前中)
	再来	遠藤 一博	末原 雅人	末原 雅人 (午前中)	野妻 智嗣	諏訪園 秀吾
放射線科		大城 康二	大城 康二	大城 康二	大城 康二	大城 康二
※CT・MRI・RI検査・放射線治療(リニアック)は随時受付【内線235】						
呼吸器外科 血痰外科 肺ドック		河崎 英範 久志 一朗 (消化器)	國吉 真行 野村 謙	石川 清司 饒平名 知史	比嘉 昇 久志 一朗 (消化器)	川畑 勉
整形外科		豊原 一作 (午前中)	豊原 一作 (午前中)	豊原 一作 (8:30～11:30)	豊原 一作 (午前中)	豊原 一作 (午前中)
リハビリ科		宮城 茂	久場 睦夫	仲本 敦	久場 睦夫	大湾 勤子
専門外来			【乳腺・甲状腺外来】 野村 謙 (予約制) 13:00～17:00	【禁煙外来】 呼吸器内科 9:00～12:00 【総合相談】 石川 清司 13:00～16:00		

※ご不明な点・予約変更等ありましたら下記へお問い合わせ下さい。なお、15:00～17:00までに時間厳守をお願いします。

独立行政法人国立病院機構 沖繩病院 〒901-2214 沖繩県宜野湾市我如古3丁目20番14号
TEL 098-898-2121(代) FAX 098-897-9838 (内科・神経内科=内線216 / 外科=内線204)

医局業務分担表



業務別責任者

レジデント・臨床研修担当	河崎英範(外科)	仲本敦(内科)
	諏訪園秀吾(神経内科)	
クリティカルパス担当	川畑勉	大湾勤子
学会・研究担当	遠藤一博	比嘉嘉
地域連携・診療録担当	大城康二	比嘉嘉
輸血療法担当	久志一朗	那覇霸
ドック・専門外来担当	樋口大介	遠藤一博
ISO推進委員	川畑勉	諏訪園秀吾
ISO内部監査員	樋口大介	久志一朗
経営改善小委員会 第一委員会担当	川畑勉	樋口大介
第二委員会担当	宮城茂	諏訪園秀吾
第三委員会担当	末原雅人	大湾勤子
第四委員会担当	國吉真行	藤田香織
リスクマネジメント委員会	國吉真行	仲本敦
	遠藤一博	
褥創対策委員会 担当委員	豊原一作	久志一朗
院内感染対策委員会 担当委員	仲本敦	藤田香織
	饒平名知史	
外来化学療法委員会	仲本敦	饒平名知史
病院広報委員会 担当委員	河崎英範	原真紀子
栄養管理委員会 担当委員	樋口大介	上原忠大
健康管理医(産業医)	宮城茂	
緩和委員会	大湾勤子	上原忠大
	久志一	

病棟外来責任者

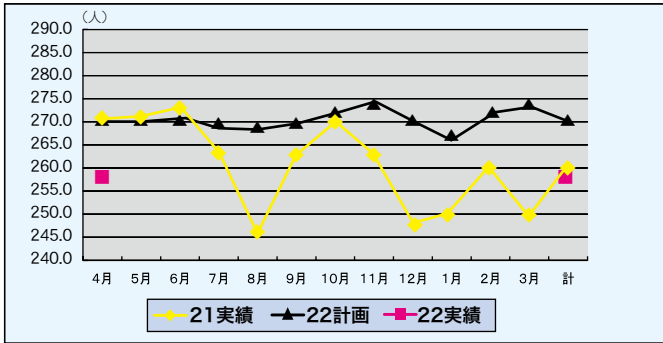
外来	川畑勉	中材手術室	國吉真行	中3病棟	仲本敦
中4病棟	河崎英範	北2病棟	末原雅人	北3病棟	樋口大介
北6病棟	宮城茂	西1病棟	諏訪園秀吾	西2病棟	遠藤一博
緩和ケア病棟	大湾勤子				

医局委員

医局長	河崎英範	会計	大湾勤子	庶務	豊原一作
図書	饒平名知史	薬剤	諏訪園秀吾	会計監査員	遠藤一博
副医局長	仲本敦				

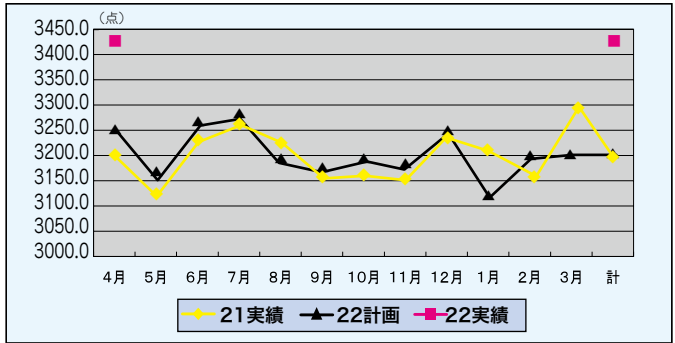
医事統計

一日平均患者数(入院)



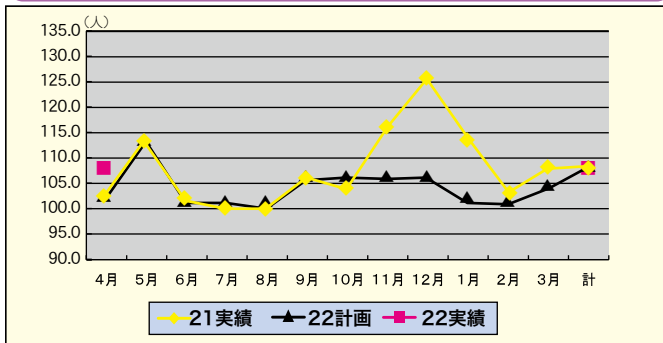
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	271.2	271.2	273.9	262.5	246.1	263.7
22計画	272.4	271.4	271.7	269.4	268.6	269.0
22実績	259.0					

一人一日あたり診療点数(入院)



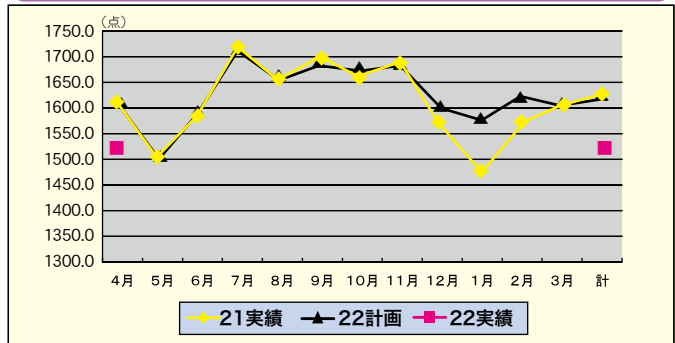
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	3,217.3	3,133.2	3,242.1	3,278.3	3,238.0	3,164.3
22計画	3,262.2	3,185.7	3,286.0	3,296.2	3,221.6	3,179.9
22実績	3,436.5					

一日平均患者数(外来)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	102.6	114.0	101.0	100.8	100.0	106.8
22計画	102.6	114.0	101.2	101.1	101.1	106.2
22実績	108.3					

一人一日あたり診療点数(外来)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
21実績	1,602.9	1,506.9	1,588.1	1,720.1	1,658.4	1,679.8
22計画	1,609.2	1,513.2	1,596.3	1,726.5	1,666.8	1,687.0
22実績	1,539.2					

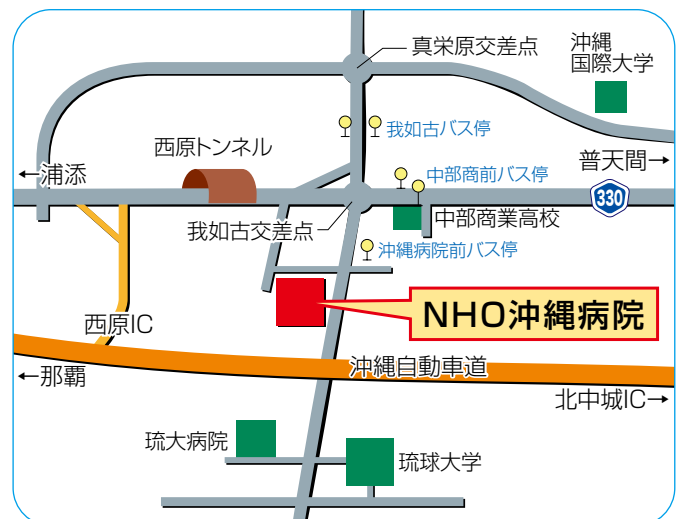
編集後記

(歩く木) 県外の人が沖縄へ来て珍しく思い、目に留まる草木と言えばガジュマルではないだろうか。気根を伸ばし幹のように成長しながら大きくなっていく様は、強力な生命力を感じさせてくれる。街路樹としても県内の至る所に植えてあり、県内の観光地にも良く植えてある。もちろん、当院の敷地内にも植えてあり、沖縄では身近な樹木である。

ガジュマルの中で、一際雄大なのがガンガラーの谷(南城市)にある「大主(ウフシュ)ガジュマル」ではないだろうか。10数メートルの長さの気根を伸ばしているその姿は勇壮として生気に満ちあふれている。

ガジュマルの木は、気根を地面に伸ばし、その気根が幹となり地面から栄養を吸収する。古い気根の地面に栄養分がなくなればその気根は枯れ、新しい方の気根から栄養を吸収する。普通、木は根が生えた場所から移動はしない。しかし、ガジュマルの木は気根を伸ばし成長し、気根を枯らし移動をする。樹木の常識を大きく覆す素晴らしい生命力を持った木なのである。

編集委員会では職員の皆様から記事を募集しています。院内行事、研究発表、旅行記、表彰等、何か良い記事がありましたら、お気軽に近くの編集委員へご連絡下さい。



編集委員

久場睦夫、江口珠美、浦本邦弘、宮里征武、岩村正史、安里栄子、島田明子、吉丸健一、新里 満、田中祐治、岩辻好夫、金城富樹